ドナー候補者のご家族へ

白血病など重い血液の病気と診断される人は、年間 数万人。
医療の進歩で薬などの治療が功を奏する患者さんが増えてはいるものの、
移植でしか治癒が望めない患者さんはまだ多く、
年間**2,000人**以上の方が骨髄バンクを通しての移植を望んでいます。
そうした患者さんのためにドナー登録している方は、現在**55万人**以上。
しかし、どんなにお気持ちがあっても、
患者さんと**白血球の型が適合**しなければドナー候補にはなれません。
また、ご都合や健康条件が整わなければコーディネートを進めることはできず、
移植を待っている患者さんのうち**移植を受けられる方は半数程度**にとどまっているのが実情です。

ドナーのご家族にとっては不安、疑問、迷うこともあるかもしれません。
提供に向けたコーディネートは、ドナーご本人のご意思を尊重しますが、
ご家族の思いも大切に、相談しながら進めていきます。

最終的な意思の確認（最終同意）にはご家族代表の出席をお願いしています。

用語解説

ドナー：骨髄や末梢血幹細胞を提供される方のこと。
造血幹細胞：血液の成分である白血球、赤血球、血小板の元になる細胞のこと。

骨髄・末梢血幹細胞提供のコーディネートの流れ

コーディネート期間は、適合のお知らせが届いてから、平均で120 ～ 130日くらいかかります。
また、採取の約1ヵ月前から検査・自己血採血等のため、週1回程度の通院が必要になります。

適合通知 → **確認検査**（説明と検査（問診・採血））→ **最終同意**（ご家族同席で提供意思の確認）→ **採取前健診**（採取1～1.5ヵ月前、より詳しい健康チェック）

最終同意確認後、患者さんは移植への準備を進めます。
同意を撤回すると患者さんが適切な治療を受けられなくなる可能性があります。

骨髄採取

自己血採血 → **入院～骨髄採取～退院** → **採取後健診**

- 自己血採血：採取量に応じ事前の貯血（1 ～ 2回）
- 入院～骨髄採取～退院：通常3泊4日程度。（採取翌々日の退院）※体調により退院が延期となることも。
- 採取後健診：採取2 ～ 3週間後、健康チェック

末梢血幹細胞採取

入院～G-CSF投与～末梢血幹細胞採取～退院 → **採取後健診**

- 入院～G-CSF投与～末梢血幹細胞採取～退院：4泊5日～ 6泊7日。採取施設により異なります。多くは入院日よりG -C S F 投与開始。投与4日もしくは5日目に採取し、翌日の退院。※採取が２日間になることや体調により退院延期となることも。
- 採取後健診：採取1 ～ 4週間後、健康チェック

採取方法

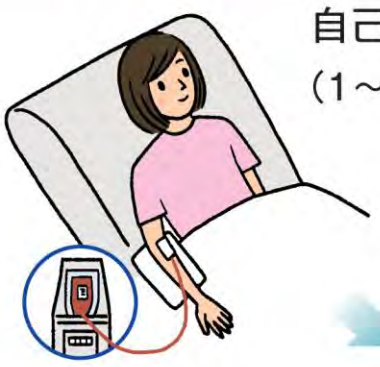
「骨髄採取」と「末梢血幹細胞採取」の2種類があります。

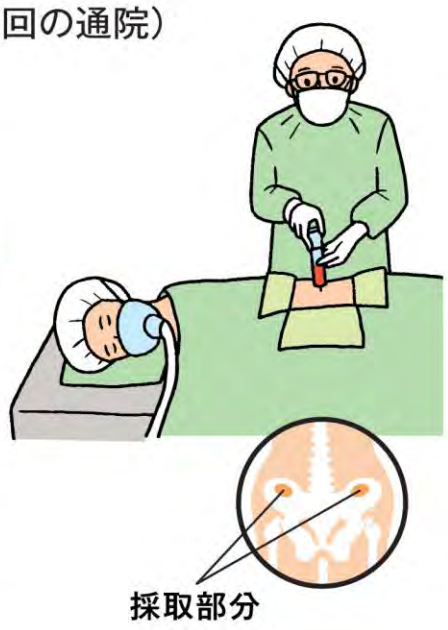
骨髄、末梢血幹細胞どちらの方法で採取を行うかは移植を受ける患者側の状況により決まります。ドナーの方には承諾できない方法があるか確認しますので、承諾しない方法でコーディネートが進むことはありません。

ドナーさんにとっては、どちらの採取方法でもリスクや痛みの度合いなど総合的にみれば負担の差はあまりないと言われています。

骨髄採取の場合

自己血採血
（1～2回の通院）

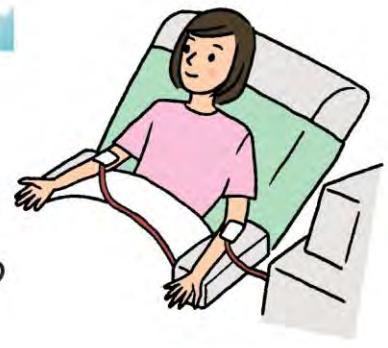




骨髄液は全身麻酔下で腸骨（腰の骨）から専用の針で吸引する

末梢血幹細胞採取の場合

白血球を増やす薬（G-CSF）を注射すると造血幹細胞が増加（3～4日の通院または入院）



末梢血幹細胞採取は腕に針を刺し、専用の機器を用いて行う

※採取した細胞数が不十分な場合は、翌日2回目の採取を行う

白血病など血液の病気にかかると血液を正常に作れなくなり、様々な身体の不調が起こります。
これらの病気の治療はとても難しいのですが、治癒が期待できる治療法として**造血幹細胞移植**があります。
移植にはHLA（白血球の型）が一致するドナーを見つけなくてはなりせんし、副作用や合併症のリスクもありますが、骨髄バンクを通じ**毎年1,000人程度の 患者さんが移植を受けています。**

よくあるご質問にお答えします

Q 骨髄採取、末梢血幹細胞採取は安全ですか？

A 医療処置である以上、リスクが全くないとは言えませんが、骨髄採取、末梢血幹細胞採取ともに、骨髄バンクの認定を受けた病院の専門医が行う安全性の高い医療技術です。

また、採取にあたっては様々な条件を設け、**ドナーの方の健康と安全を最優先**して行います。

これまでに骨髄バンクでは2万例以上の採取が行われましたが、死亡事故や命にかかわる後遺症の例はありません。

日本の骨髄バンク以外では、過去に海外の骨髄採取で5例（血縁3例、海外の骨髄バンク2例）、日本国内では骨髄バンクを介さない採取（血縁）で1例、計6例の死亡例が報告されています。

末梢血幹細胞採取死亡例は12例で、すべて海外の事例です。

Q 退院後、何かあったら、どうしたらよいですか？

A 体調不良、痛みなどが気になった場合や異常を感じた場合は、すぐにコーディネーターにお知らせください。

採取施設の採取担当医が責任を持って診療にあたります。

Q どのくらいで日常生活に戻れますか？

A 骨髄採取の場合、通常、採取後2日程度で退院でき、多くの場合、日常生活に大きな支障はありません。翌日から仕事に復帰する方も多いですが、1週間程度は傷口を清潔にして、重いものを持つことや重労働は避けてください。体調によっては退院が延期になることもあるため、退院直後には、大事な予定などは入れておかない方が安心です。

末梢血幹細胞採取の場合、多くの方は採取の翌日に退院できます。骨髄採取の場合と同様、多くの場合、日常生活に大きな支障はありませんが、1週間程度は無理しないようお過ごしください。

Q 採取による痛みはありますか？

A 骨髄採取は全身麻酔で行いますが、麻酔が覚めた後の痛みは個人差があり、**1～7日間で消えた**という方がほとんどです。まれに1ヵ月以上残る場合もありますが、日常生活に問題がない場合がほとんどです。

末梢血幹細胞採取の場合、白血球を増やす薬の影響で骨痛が出ることがありますが、薬の効き目がなくなれば消失します。また採血の針を刺したところや周りが腫れたり青くなることがありますが、通常は1～3週間で自然に治ります。

いずれも、鎮痛薬などを適切に使用して対処します。

Q 採取の後遺症はないのですか？

A しびれ感や違和感など、主に知覚的な問題が長く続き、保険金が支給された例が年に数例ありますが、いずれの事例も発生時と比較して徐々に改善傾向を示し、身体が動かなくなったり日常生活が送れなくなるような事例はありません。

Q ドナーに対する補償はありますか？

A 骨髄バンクは採取の際の事故等に備えて「骨髄バンク団体傷害保険」に加入しています。保険金額は最高1億円です。保険金の支払いは保険会社の審査によって決定します。

Q 本人の希望だけで話が進むことはありませんか？

A コーディネートは、ドナーのご家族の状況も伺いながら進めます。提供にはドナー本人の意思だけなく家族の同意を必要としています。最終的な意思の確認（最終同意）の面談には、ご家族の代表者の方にも同席していただき、同意書に署名いただきます。コーディネートの早い段階からドナーご本人とご相談ください。

移植にはドナーの方やそのご家族、医師、医療スタッフなど多くの人が関わり、患者さんの命をつないでいます。

家族の思い

とにかく心配で心配で。出来るならやめてほしいというのが本音でした。提供したのは娘の夫で、ドナー登録しているのは知っていました。適合したと聞いてから骨髄提供についてかなり勉強して提供自体には賛成でした。しかし頭では理解していても、心配は別。「小学生の子供が二人いるのに、もし何かあったら残された家族は・・・」という気持ちが募る。それでも、娘夫婦の気持ちは尊重したいので「やめてほしい」とは言いませんでした。

終わってみて、大袈裟な言い方ですが、娘夫婦を誇らしく思っています。提供日がちょうどクリスマスでした。孫を連れて見舞いに行った病室で「患者さんへのクリスマスプレゼントだね」と話したのを思い出します。

提供ドナーの思い

残業して帰宅後に適合通知が届いていた。それを目にしたときには「疲れているのに、これ以上、自分が何かをやらないといけないのか?」と感じてしまった。ドナー登録をしたのは10年以上前で、骨髄移植について細かいことは忘れており、家族や上司に説明するために「ドナーのためのハンドブック」を「面倒だなー」と思いながら読んだ記憶がある。最初は「提供は負担だな」と感じたのが、正直なところだった。

でも考えるうちに「自分の家族がもしそうなったら」「患者さんも誰かにとっての大切な家族だし」「大切な人を失うことを避けるために自分にできることがある」との思いが湧いてきて、それが提供を決める動機となった。子供達には古本屋で買った漫画本で説明した。「病気に苦しむ人がいて、みんなで頑張って作った制度なんだよ」って。

提供を決定する際の迷いはあった。一番の懸念点は、「全身麻酔や健康被害」。また「職場への迷惑」「家族の負担」。最終的には、自分がドナー候補者になることは命に関わる問題だと考え、「自己の価値観に従って行動すること」の重要性が懸念にまさった。理解のある上司で、職場環境は後押しとなった。提供後、妻がドナー登録に関心を持つようになった。

移植医の思い

私は血液内科医として患者さんの移植治療を行っていますが、骨髄バンクのコーディネートでは、調整医師という立場で提供ドナーさんにかかわることもあります。

ドナーさんに採取方法やリスクを説明するとき、ドナーさんの決断を待っている多くの患者さんたちのことも頭にあります。しかしドナーさんに対して情に訴えることはありません。なぜなら麻酔をかけ、針を刺す医療行為が「絶対に安全」ということはないからです。

自分が病気になると、ある医療行為のリスクと治療効果を天秤にかけて、その治療を受けるかどうかの判断をします。しかしドナーさんは、病気と闘っている患者さんのための医療行為を受けます。ドナーさんが提供を決心したとしても、ドナーさんを大事に思うご家族が賛同できるかはまた別の話です。我々は可能な限り事実をありのままに説明し、ドナーさんとご家族が患者を救いたいという崇高なボランティア精神でドナーとなってくださることを待つのです。

移植の日、移植病院に無事に届いた骨髄・末梢血が患者さんの身体に点滴ではいっていきます。患者さんたちは厳粛な気持ちで自分の身体に入っていく瞬間を過ごします。移植医は、何としても移植を成功させようと気持ちを引き締め、また人と人が織りなす美しい感動の場面に立ち尽くすのです。

ドナーを支えるしくみ

提供に関するドナーの方の費用負担はありませんが、
下記の制度は、ドナーの方の経済的負担の軽減に役立つ制度です。

ドナー助成制度

骨髄バンクを介して骨髄または末梢血幹細胞を提供したドナーに対し助成金を支給する制度が、全国の市区町村で導入されはじめており、現在までに導入している市区町村は全国で1,000を超えています。

詳細は直接、各自治体へお問い合わせください。対象の自治体は下記URL をご参照ください。

https://www.jmdp.or.jp/donation/donorsupport/assistance.html

生命保険会社のドナー給付

提供ドナーは入院や検査などで、1週間程度学校や仕事を休むことになります。

皆さまがご加入の保険の中にも提供された場合、給付金が支払われるものがあります。

詳細は、ドナーご自身が契約されている各保険会社へ直接お問い合わせください。

対象会社は下記URL をご参照ください。

https://www.jmdp.or.jp/donation/donorsupport/benefit.html

●骨髄バンクでは申請に必要なドナー証明書を発行しています。骨髄バンクまたはコーディネーターにお申し出ください。

骨髄バンクに関するご質問・お問い合わせ

日本骨髄バンク　検索

<発行者>
公益財団法人 日本骨髄バンク
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3 丁目19 番地 廣瀬第2 ビル7F
TEL.03-5280-8111(代表) FAX.03-5280-0002
https://www.jmdp.or.jp/

ドナー体験した人の声などをお伝えしています。
みんなのストーリー
https://www.jmdp.or.jp/about/story/

2023年9月1日 第2版発行